

月中旬、兵庫県洲本にある善應という寺の僧侶がウミガメを助け、海にもどしたという記事を掲載していた。

同紙によると、商人がウミガメをシムラジに売ろうとしているのを知った僧侶が4500円(約7万2千円)で買い取り、地名や日付などを甲羅に記して翌日海に放した。

同センターの山口真名

美所長によると、メスのアオウミガメで、甲羅の長さは約90センチ、体重は20キログラム、年齢は10歳、父島・父島一見寺関係者の話では、同寺境内の砂浜に14日夜、上はウミガメを何頭も救ったが、今回は特別に大きく、みなでお金を集めて買って取り、寺で一晩ため保護したところ、18日に7個の卵を産んだ。

放流してもウミガメは何回か岸に戻ってきたが、やがて海に消えた。ウミガメの捕獲地では、数人の群衆が押へ向かうかま

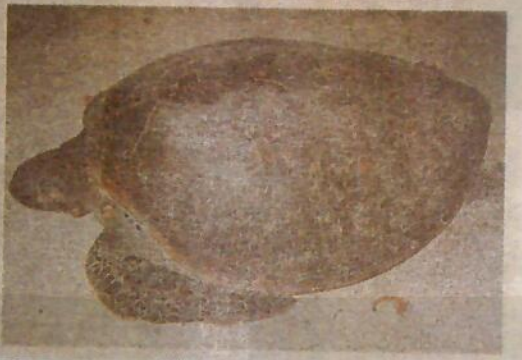
まるともなかった。甲羅には「広島」「善應」「徐園」などの漢字が赤く彫り込まれている。山口さんは「中国本土

で放されたウミガメが小笠原まで泳いできたこと

の中国人女性、任敏儀(任敏儀)に相談した。任敏儀がインターネットで調べてきたところ、中国の現地で

8月上旬をめどに海に返

紙「羊城晚報」が今年1



①「羊城晚報」が報じたウミガメ提供、金羊網(中国のニュースサイト)小笠原・父島に上陸したウミガメ。甲羅に彫られた文字が中国で報じられたものと一致した。NPO法人エバーラスティング・ネイチャー提供

2006
BONIN
OGASAWARA
RESTING
Recovery +
POST-REST
SAT TAG

海ガメはるばる3000^{キロ}口

中国で命拾い、

日本で産卵

「食用」寸前僧侶助ける

中国・広東省で危うく食用になるところを地元の僧侶に救われ、海に返されたウミガメが今月中旬、小笠原諸島（東京都小笠原村）の父島に上陸し、産卵した。NPO法人エバーラスティング・ネイチャー（本部・横浜市）が運営する小笠原海洋センターが、カメの甲羅に書かれた地名や日付をもとに確認した。放流地とは直線距離で約3千^{キロ}離れており、カメを救った尼僧の釈文敬さん（82）は「カメが日本で無事であることが分かって、とてもうれしい」と話している。

（山本智之）

